

管カメ協

診断評価マニュアル発刊

全国水道管内カメラ調査協会（杉戸大代会長）は10月、「水道管内カメラ診断評価マニュアル」適正な診断・判定で管路を最適管理で管路を最適管理（略称「管カメマニュアル」）を発刊（写真）した。錆の状態、内面付着物、内面防食状況、堆積物、浮遊物の5項目について、S・A・B・C・Dの5

段階（一部3段階）にランク分けし評価する方法を標準化したもの。管内カメラ調査の手順、診断評価のノウハウ、報告書作成の手順等についても、多数の写真や事例、データ等を交えて分かりやすく紹介している。

同協会は平成25年5月、カメラ調査の概要や調査計画の

立て方、具体的な実施方法等を網羅した「水道管内カメラ調査ハンドブック」カメラ調査を活用するために」を発刊しており、今回のマニュアルはこのハンドブックを補完するもの。

平成29年、管路内面評価委員会（委員長「小泉明東京都立大学大学院特任教授」）で作成業を開始。3年間の検討を経て発刊に至った。

マニュアルでは、管内状況のランク分けに関し、各ランクのモデルとなる写真を2枚ずつ掲載し、分かりやすくした。管内カメラ調査の手順、調査例、各年度の都道府県別実績、最近発表された管内カメラ調査に関する論文、同協会の概要と歴史等が写真・図

表を交えて紹介されている。マニュアルに掲載されている各書式は、同協会HPからダウンロードできる。

B5判、本文75頁（オールカラー）。6000部を製作し、会員や関係先のほか、全国の事業体に無償で配布している。

同協会の杉戸会長は「このマニュアルを管内カメラ調査で活用していただくことにより、事業者の皆さまの管路更新や洗管の基礎資料づくりに貢献していきたい」と期待を寄せる。

希望する事業者には、追加の配布も可能。問い合わせ先は同協会事務局（電話078-291-4666）まで。



多数の資料を掲載